

ヘルプマーク 理解促進へ講座

静岡のNPO

NPO法人オールしずおかベストコミュニティ(静岡市葵区)は19日、外見では分かりにくい障害や病気のある人が携行する「ヘルプマーク」への理解を深めてもらう出前講座を同市駿河区の静岡ガス本社で開

ヘルプマークについて説明する渡辺さん(静岡市駿河区の静岡ガス本社)



た。オンラインも含め、同社の社員41人が参加した。ヘルプマーク利用者への適切な援助を知ってもらうことが目的。同法人工賃支援部の渡辺佐妃子さんは「利用者は常に支援を必要とするわけではない。見守ることも配慮の一つ」と説

いた。困っている人に声をかけ、マークの記載内容を確認し、適切な支援を考えて行動する流れを演じた。参加した長阪伸哉さん(51)は「困っている人に積極的に声をかけ、適切な援助を考えたい」と話した。

(令和6年9月21日・静岡新聞)

(令和6年9月22日・静岡新聞)

ヘルプマーク学んで 裾野高で静岡のNPO講座

認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ(静岡市葵区)は20日、外見で分かりにくい障害や病気のある人が携行する「ヘルプマーク」を学ぶ出前講座を裾野市の裾野高で開いた。福祉分野を学ぶ「福祉介護系列」の2年生22人がヘルプマークの意味や携帯する人への対応を学んだ。県から委託を受けたヘルプマ

ーク周知事業の一環。講師を務めた同NPO工賃支援課の渡辺佐妃子さん(52)は「ヘルプマークを持つ人を見かけたらまずは見守り、困っている様子だったら周りの人と協力しながらできる範囲で支援してほしい」と話した。必要な支援や配慮は人によって異なるため、「相手に支援の有無や内容を委ねるような声かけを」と呼びかけた。ヘルプマークを持つ友人がいる藤本弥桜さん(17)は「今後は友人だけではなく、知らない人でも必要に応じて声をかけたい」と話した。



ヘルプマークを実際に手に取る生徒＝裾野市

(令和6年11月2日・静岡新聞)

昼休憩に「福産品」いかが 静岡ガス富士支社で 障害者施設が販売

「福産品」のパンを購入する社員
＝富士市の静岡ガス富士支社



富士市の静岡ガス富士支社は30日、障害のある人が手がけた商品「福産品」の販売会を同社で行った。昼休憩の時間帯に惣菜パンや弁当など約25種類170点が並び、多くの社員が好みの商品を買求めた。県内企業と福祉事業所をつなぐNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」の協力を得て開催した。いずれも就労継続支援B型事業所の「ふれあいショップあゆみ」(富士市)と「朝霧みどりの家」(富士宮市)が出店。利用者が売り子を務め、おすすめの商品の紹介などを通じて元気よく社員と交流した。同社の地域貢献活動の一環で、静岡市の本社に続いて2回目の開催。

静岡新聞
令和6年(2024年)12月2日(月曜日)

ヘルプマークの必要性などを紹介したフォーラム＝静岡市葵区



ヘルプマーク周知へ 理解促進フォーラム

静岡で県など

県と認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティはこのほど、援助や配慮が必要な人のために作られた「ヘルプマーク」の周知と理解促進を図るフォーラムを静岡市葵区で開いた。県感染症管理センターの

後藤幹生センター長と全国心臓病の子どもを守る会県支部の大石裕香さん、ラジオパーソナリティーのしなつちさんが登壇し、マークの必要性や普及への課題などを紹介した。

後藤センター長は「病名がなくても、例えば熱中症になりやすいなどの理由で付けてもいい」と説明し、障害者や病人だけのマークではないことを強調。大石

さんは、マークは病院や障害福祉関係の施設で配布しているとし、「使う、もらうことのハードルが高い。駅などで誰でももらえるようになれば」と期待した。

マークの普及には、医療機関からの積極的な情報発信や企業との協力などが必要とした。フォーラムには福祉関係者ら20人が参加した。